

平成27年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

学校運営計画 (4月)		評価(3月)			
学校運営方針	次代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに、自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。	A			
昨年度の成果と課題	年度重点目標				
	具体的目標				
本校の特色を表す「春日高校五常」、 「授業心得五行」の見直しを図り、さらに文武両道に成果を上げることができるよう校 内組織の効率化を図っていく。小委員会の 活性化により教職員の負担感軽減、そして 小グループによる研究会等の活性化により 教師力の向上を図りながら例年以上の学 力の伸長及び部活動の実績向上を目指 す。本校の文武両道の特色を地域等へ積 極的に情報発信する。	人としての在り方・生き方、及び学ぶ意義について 考えさせ、志をより一層高め進路の実現を図る。		心視の時間(総学)を有効に活用し、志の育成を図る。 外部との連携を図り、体験的な活動やキャリア教育の視点での講演会等を実施する。 早期に進学目標大学を定め、大学研究等を行う。		
	生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いの 中で「春日高校五常」をとおり、豊かな人間性を育 む。		基本的生活習慣の確立のために自己管理・自己指導能力の育成を図る。 学校行事等を通じ、集団活動におけるチームワークの重視、信頼関係の醸成を図る。 自他の安全を確保するためのルールやマナーの指導の継続と強化を図る。	心身の健康管理及び環境美化活動の充実を図る。	
	「授業心得五行」を徹底し、自学自習の習慣を身に つけさせ、学力の向上・深化を図る。		授業心得五行を全職員で実践し、徹底する。 部活動並びに教科及び学年で協働して意欲的・自主的な学習態度の育成を図る。 指導力向上のための教科研究等を各自或いはグループ等で行う。		
評価項目	具体的目標		具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
校内組織	校内組織の見直しをはかり、効率的な業 務の推進を図りつつ、各分掌間の連絡調 整を十分に行うことで分掌間の関係の緊密 化を図る。		職員相互の連携体制を強化し、学校行事の円滑な運営を図る。	B	B
		情報管理やキャリア教育について専門化をはかり、業務の効率化を推進する。	B		
		各部間の連絡調整を図るための会議を定例化することで連携強化を図る	A		
教科指導	一時間の授業の大切さを認識させるととも に「授業心得五行」を実践させ、意欲的・自 主的学習の取組を組織的に行う。 生徒の指導及び評価の一体化を推し進 め、教師の教科指導力の向上を図る。	年度始めに教科オリエンテーションを実施するとともに、「授業心得五行」の徹底を全職員で行う。	A	A	・自主的、協同的な学習を定着化させるために、ア クティブラーニングの導入を今後もはかっていかな ばならない。・欠課時数等の報告規程を定め、長欠 傾向の生徒の動向把握に努める。・家庭学習課題 の量や内容について精選、調整を推進しなければ ならない。・指導と評価の一体化を生徒に明示しな がら推進する必要がある。
		家庭学習時間の定点調査を行い、家庭学習習慣の定着を図る。	A		
		年間出席率99%以上とし、本校に求められる基礎学力の定着を図る。	B		
		考查ごとに教科会議等を行い、評価法の点検及び指導と評価の一体化を図る。	B		
		教科研修に積極的に参加を促し、教授力の向上を図るとともに、問題作成検討会を充実させる。 授業研究に努めることで授業力の向上を図り、公開授業、相互授業参観の内容を前年度以上に充実させる。	B A		
生徒指導	自己指導能力の育成を図る。 集団活動におけるチームワークを重視 し、信頼関係を深める。 自他の安全を確保するための指導の継 続と強化を図る。	「春日高校五常」、「授業心得五行」を日々実践させ、自主・自律の精神を涵養する。	B	A	・積極的な生徒観察に努め、問題行動の未然防止 を図っていくかねばならない。・生徒会活動の自主性 を高める場面設定を増加していくかねばならない。・ 下校時間の厳守が不徹底であった。文武両道の視 点からより徹底を呼びかけたい。・道徳教育を徹底 するとともに、特に交通マナーや情報モラルの向上 に積極的に取り組まねばならない。
		道徳教育の充実により、いじめ問題の根絶を目指し、問題行動の予防を図る。	A		
		学校行事において生徒会執行部や専門委員会のリーダーシップを発揮させる。	A		
		年間を通じて部活動加入率85%以上を実現する。	A		
進路指導	進路データの有効活用により、教員の進 路指導力の向上を図る。 生徒の進路意識・キャリア意識の向上と、 高い志の継続維持を図る。	指導力向上に向けた研修会の実施や入試問題研究会等への参加を積極的に行う。	A	A	・成績上位層の育成と難関大学合格に向けて、京 都大学プロジェクトの活用を組織的に推進してい きたい。・模試実施後の資料提供が迅速にできる体制 が整備されたので、分析会の更なる内容充実を図る 必要がある。
		毎回、模試等の分析結果を踏まえた課題を確認し、教科目標を設定する。	A		
		効果的な外部講座・講演会・大学訪問等を企画運営し、進路に係る意識の高揚を図る。	A		
		1年の職業・職種研究、2年の学部・学科研究及び系統的な小論文指導等を充実させる。	B		
保 健	心身の健康管理及び環境美化活動を充 実させる。	生徒サポート委員会、学年主任等連絡会とおして諸課題の早期対応に努める。	B	A	スクールカウンセラー等との連携を図り、生徒の抱 える諸課題の早期解決に努める。
		環境委員やグリーンスタッフの活動を更に充実させ、環境整備、エコ活動を行う。	A		
広報活動	地域や関係機関へ情報を発信し、本校の 魅力の周知に努める。	校内ICT環境の整備と、教職員のICT技術向上を図る。	B	B	HPは充実した内容に整備されつつある。体験入学 は、内容精選を図りつつ機会を増やす必要がある。
		HPの充実や体験入学・進路相談事業の効果的な活用などの他、中学校訪問を充実させる。	A		
職員研修	授業評価や授業研究等とおして授業の 改善と充実を図る。	生徒や公開授業時の保護者による授業アンケートを2回以上実施する。	B	B	「授業アンケート」の集計と分析の迅速化を図りた い。・科目横断型の新テストに対応する教科指導力 の育成を早急を図る必要がある。
		相互授業参観での参観者数を前年度の1割増を図る。	B		
保護者・同窓会 等との連携	PTAや同窓会との相互理解を深め、連 携して学校の発展に努める。	PTAや同窓会と連携し、総会、講演会や視察研修等の出席率の向上を図る。	A	A	講演会や視察研修への参加者は増加した。クラス 懇談会等のあり方を見直し、連携を強化したい。
		保護者との相互理解の深化のため、クラス懇談の工夫等による更なる連携に努める。	A		
図書活用	情報発信の場としての図書館の積極的な 活用を促進させる。	読書会の充実や読み聞かせボランティアへの参加をおしてブックマイレージの登録者数の増加を図る。	B	A	図書館活動の活性化は成果を残せたので活動を継 続させたい。ブックマイレージは見直しを図る。
		図書館の環境整備に努め円滑な利用を目指す。	A		